



法要にご臨席されたご門主様。お言葉を述べられた

うちなー

浄土真宗本願寺派
発行 本願寺沖縄別院 (浦添本願寺)
発行人 中 岡 順 忍
〒901-2132
沖縄県浦添市伊祖5-10-1
電話 (098) 877-3276
ファックス (098) 877-4242
mail ameku2182@yahoo.co.jp

7月3日(木)、糸満市の沖縄県
菅平和祈念公園で「ご門主様のご臨
席を賜り「太平洋戦争全戦没者・
沖縄戦終戦80年追悼法要」をお勤
めしました。
法要に先立ち、菊城元明追悼法
要実行委員長(真常寺住職)が挨拶し、園城義孝浄土真宗本願寺
派総長が「戦後80年にあたっての
平和を願うメッセージ」を朗読し
ました。さらに、沖縄戦の体験者
である吉川嘉勝さんが追悼の言葉
を述べました。



菊城委員長



園城総長



吉川さん。集団自決について証言し、「愚かな戦争は二度と繰り返してはならない」ときっぱりと語られた

生死を分けた母の「命る宝やさ」
吉川さんは1945年3月28
日に起きた渡嘉敷島のいわゆる
集団自決の生存者で当時6歳。戦
争が激化していく中、前日に米軍
が島に上陸し、防衛隊として駐留
していた日本軍の命令で住民は島
東部の北山に集められていました。
そこで村長の「天皇陛下、万歳」
の声を合図にあちこちで手榴弾が
炸裂する中、吉川さんの兄が持つ
ていた手榴弾は不発。その時、母
が「死ぬしや、何時やちいんない
さ。皆立て、命る宝やさ」(死ぬの
さ。皆立て、命る宝やさ)

孟蘭盆会



孟蘭盆会の様子(沖縄別院)

8月10日(日)に沖縄別院、久
米島布教所にて孟蘭盆会を修行し
ました。「お盆」は正式には孟蘭盆
会といいます。「孟蘭盆経」とい
う次のような内容のお経が由来です。
あるとき、お釈迦さまの弟子の
目連尊者が、自身の幼いころに亡
くなった母親を神通力で探すと、母
親は餓鬼の世界におちて苦しんで
いました。
餓鬼とは、
この世で
貪った報
いとして、
飢えや渴
きの苦し
みの世界
におちた
者のこと
です。
目連尊者は母親が苦しむ姿に
驚き、お釈迦さまに相談しました。
お釈迦さまは、「あなたの母親はあ
なたや家族にはとてもいい人でし
たが、家族を想うあまり、他人に
はよくない行いをしました。その
ため、餓鬼となって苦しんでいる
のです」。そして、「母親を助ける
には、山や森で修行していた僧侶
が町へ降りてきたら、おいしい食
事を用意しなさい」と。目連尊者
が僧侶たちに食事を施すと、母親
は餓鬼の世界から救われました。
『孟蘭盆経』に限らず、全ての
お経は、仏教の祖であるお釈迦さま
のお言葉です。また、お経は亡く
なられた方のために勤めるのでは
なく、生きている私たちが聞かな
ければならないものです。
沖縄別院にご縁のある方は是非
お参りいただき、仏さまのお話を
一緒に聞かせていただきましょう。



仏婦総連盟幹部研修会の皆さん

ハイサイ!!
沖縄へようこそ
6月7日(土)に仏婦総連盟幹
部研修会の皆さん、8日(日)に本
派関係学校同和教育研究会の皆さん
が、7月4日(金)には本願寺参
与会の皆さんが沖縄別院を参拝さ
れました。
沖縄別院では今後とも、皆さん
のご参拝をお待ちしております。



本願寺参与会の皆さん



本派関係学校同和教育研究会の皆さん

久米島布教所の 行事報告

みどり丸遭難犠牲者追悼法要

旧日本軍による住民虐殺を伝え追悼する
「史実不戦之碑」 建碑式法要



みどり丸
遭難犠牲者慰霊碑

史上最悪の海難事故となりました。今年で事故から62年となり、県内でも、「みどり丸」を知らない人や慰霊碑を見たことのない方が増えています。

この事故で犠牲となった乗客の多くは、お盆帰省の子どもたちでした。いま久米島に住む子どもたちの多くが事故を知らないのは残念でなりません。この悲惨な事故を忘れることがないよう、今後追悼法要をお勤めします。

「史実不戦之碑」 建碑式法要

8月20日(水)には久米島布教



所境内地を会場として、「日本軍による住民虐殺八十周年追悼集会」が同実行委員会主催にて開催されました。「史実不戦之碑」の建碑式(お墓や石碑の完成式の法要名称)のお勤めをしました。

この碑は、1945年6月27日から8月20日にかけて起こった当時の日本軍久米島分遣隊による住民虐殺事件を次世代に伝えるべく、

上段左) 史実不戦之碑。下のプレートには「未来のために」と題して、過去の悲惨さを未来への教訓に生かす金城さんと久米島町民の決意が綴られている
下) 180人もの人々が参列された建碑式法要の様子



沖縄県出身の彫刻家、金城実さんにより制作されました。法要には約180名もの人が参列され、犠牲となった20名を追悼しました。事件の追悼法要はこれまでされてきませんでしたが、碑の完成を縁として今後も法要を継続し、次世代へと伝えていきます。

上段右) 金城さん制作によるレリーフ。全体に彫刻、中程に、亡くなった子を抱く母親のデザインを焼き付け、下のプレートには犠牲者20名の名前を刻んで追悼している

太平洋戦争全戦没者 沖縄戦終戦80年 追悼法要

はいつでもできる。命こそ宝。立つて逃げよう」と叫んだそうです。

吉川さんは、教員として働き、戦後は長く戦争体験を語らなかつたものの、2007年に高校の歴史教科書から「集団自決に日本軍



が関与した」旨の記述が削除されたことに危機感を抱いて証言活動を始めました。その原動力は母の言葉だったそうです。

父が戦火に倒れた様子を語り、「愚かな戦争は二度と起こしてはならない」と述べられました。

追悼し非戦平和を誓う法要

その後、中岡順忍沖縄県宗務事務所長を導師に、沖縄県内6名の結衆、参拝者と共に「正信念仏偈作法第二種」のお勤めをし、戦争犠牲者への哀悼の意を表し、非戦平和への誓いを新たにしました。

ご門主様のお言葉

法要の最後にはご門主様よりお言葉を賜りました。沖縄では一般住民を巻き込む悲惨な地上戦が行われたと沖縄の歴史を語られ、犠牲者への追悼や平和への思いを述

べられました。

中岡事務所長は、「今回の法要には全国の宗会議員や教務所長らにも案内状を出しました。沖縄は太平洋戦争で本土の「捨て石」にされ、戦後は基地問題を抱えています。沖縄の歴史や問題は他人ごとではなく、日本全体の問題であることを意識してほしいという思いでした」と説明しました。

法要には全国各地から約200人が参拝されました。



法要には全国各地からお参りがあった。摩文仁の丘に非戦平和を誓うお念仏が響いた